

MACF礼拝説教要旨

2020.05.31

「恵みによる救い」

ローマの信徒への手紙

3:21 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。

そこには何の差別もありません。

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

3:25 神はこのキリストを立て、その血によって信じる者のために罪を償う供え物となさいました。

それは、今まで人が犯した罪を見逃して、神の義をお示しになるためです。

3:26 このように神は忍耐してこられたが、今この時に義を示されたのは、御自分が正しい方であることを明らかにし、イエスを信じる者を義となさるためです。

+++

この箇所はローマの信徒への手紙の中のハイライトのひとつと考えることができます。

重要な内容が書かれています。

つまり、神による「罪ある人間に対する救済」が示されているからです。

私たちは残念ながら自分自身の力で「自分を神との関係において正常に戻す」ことができません。

私たちは、生まれた時から、心の中に「自分を神と等しくしたい」と思うような思いがすでにあり、それをいくら修養しても努力しても消すことはできず、また、神ご自身を満足させる方法も私たちにはわかりません。

私たちの「救い」「神との関係正常化」のためには、神の側からの働きかけがなければ、私たちは何をどうすれば良いのかまったくわかりません。

そのための補助的な手立てとして神様は律法をお与えになりました。これは神が何を喜ばれるのか、何を嫌うのか、そういうことがわかる基準のひとつです。

しかし、それを守り抜く力は私たちにはありません。

ですから、律法の存在自体が、私たちを罪に定めるような役目を担ってしまうことになるわけです。

神を喜ばせるには「律法」が守られる必要があるからです。でも、人間には、それが不可能なのです。

そういう状況の中に、神は御子イエス・キリストをお遣わしになりました。

イエス様は「旧約聖書によって裏打ちされた約束の救い主」としてやってきました。

「律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。」と書かれているのはそういう意味です。

「神の義」という言葉は「神の救い」と考えて間違ひありません。

その箇所をそのまま読んでみましょう。

3:21 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

ここにある「信じる」という言葉は「信頼する」という意味です。頭の中で理解、納得するだけでなく「信頼すること」です。イエス・キリストを信頼することによって「神の義」「神の救い」にあずかることができるとパウロは断言しています。

すばらしいニュースです。

イエス・キリストを信頼するとは具体的にどういうことなのでしょう。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

まず前提があります。それは「私たちは神のまえに罪ある存在なので、自力で救いを受けられない、救いを作れない。救いに到達できない、神の栄光に浴することができない」という内容です。

これはとても大切な前提です。ここまでずっとパウロが力説してきたのはまさに、このことです。

「私たち、すべての人間は自分の力、能力では、神の救いを手に入れることはできない。」

パウロはガラテヤの信徒への手紙の中でこう書きました。

「2:16 けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義としていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。」

しかし、「キリスト・イエス」の

- 1) 貜いのわざをとおして
- 2) 神の恵みにより
- 3) 無償で

神からの救い、赦し、関係回復が可能になったというのです。

これは大きな大きなニュースです。

- 1) 貜いのわざをとおして、
罪は代価、弁済、犠牲などによって処理されなければなりません。

神との関係における人間の罪は「深刻な問題」でした。

それは「死」をもって支払わなければならぬほど深刻な神に対する反抗でした。

イエス様は、その「死」の代価を私たちに代わって、引き受けてくださいました。まさにイエス・キリストのおかげで、私たちに救いが届いたのです。

神の赦しが届いたのです。

- 2) 神の恵みにより

「恵み」とは、本来受け取る資格のないものに提供されている善意、祝福と考えるこ

とができます。

私たちには「救いを求めるここと」はできても、「神は私たちを救う義務」はありませんでした。

裁いて、滅ぼし、もう一度全てをやり直す自由を神はお持ちです。

でも、罪ある私たちを愛し、憐み、恵みをもって私たちのために救い主イエス・キリストをお遣わしになり、

救い、解放、造りかえ、赦しの恵みを与えてくださいました。

私たちには救いを請求する資格はありませんでした。

でも、神の大きな恵みにより、救いへの道が開かれました。

関係回復への道を神の側で開いてくださいました。

3) 無償で

これは重要なポイントです。

神の救いは、贖い主、恵みの救い主への信頼があれば受け取ることができます。

でも、それが理屈の上ではあまりにも簡単なので、それでは申し訳ない、もう少し私たちの方で何かできるのではないかと、あれこれ救いの条件を自分たちに付加してしまう傾向を私たちはもっています。

たとえば、教会での会合は絶対に休まないとか、献金をしなければいけない、とか、伝道しなければいけないとか、集会や礼拝に参加できることは祝福であり、献金できることも喜びです。他の人にイエス様の祝福を分かち合うこともすばらしいことです。

でも、それらは「救いの条件」ではありません。

自分は、これがないから救われないとかあれができないから、救われないとか、考えることは、それ自体「罪」です。神の恵みを拒否することになるからです。

この救いは「無償」です。「タダ」です。しかし、だからと言って「安っぽいもの」ではありません。イエス・キリストのいのちがかけられているからです。

イエス・キリストの命がけの救いへの招きがあるからです。

でも、ただで手に入るとなると、私たちはどうしても、その内容も軽視する傾向があり、その犠牲の大きさを忘れてしまう傾向があります。

だからこそ、イエス・キリストへの信仰を確実にし、深めていくためにこそ聖書があり、教会があるのです。

今日のメッセージはとても大切です。

この聖書の言葉をしっかりと心に留めて前に進みたいものです。

3:21 ところが今や、律法とは関係なく、しかも律法と預言者によって立証されて、神の義が示されました。

3:22 すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。

そこには何の差別もありません。

3:23 人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、

3:24 ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

祝福がありますように。

アーメン